

# 人権なら

2023年4月1日

第148号

NPOなら人権情報センター

●ひと・まち・生き生き

## 「山下さん聞き取り」8月完了

### 「解放運動史」編纂委員会の立ち上げへ

NPOなら人権情報センターはこの間、「部落解放運動史の編纂」と「山下力さんからの聞き取り」の2事業に取り組んできた。進行状況はコロナ禍と事務局の力量不足で大幅に遅れている。

「運動史編纂」は1988年から2006年までの区分整理を終えたが、追加分の資料が未整理のまま。

「聞き取り」は、石元清英さん(元関西大学教授)が2020年6月から6回にわたって作業。①上但馬の仕事と生活②山下さんの解放運動以前③山下さんと解放運動④奈良の解放運動⑤運動の分裂⑥糾弾⑦差別事象⑧解放運動、と編集校正を進めてきた。

今後は、もう一度聞き取りと修正を経て、8月をめどに完了。その後、冊子として発行を予定している。

「聞き取り」は運動史の基礎資料ともなるため、運動史編纂委員会の早急な立ち上げを目指していく。

\*\*\*\*\*

## 旧優生保護法は違憲と認定

### 仙台地裁が被害者への損害賠償を認める

旧優生保護法に基づき、知的障害を理由に不妊手術を強制されたとして、東二郎さん(仮名)とSさんの2人が2018年、仙台地裁に提訴した。私はピープルファーストの支援員として、仲間である彼らの裁判を応援してきた。その判決が3月6日に言い渡された。

判決では、旧優生保護法は違憲であることを認めた。また、国が優生手術を積極的に推進し、優生思想を肯定するような政策を長期にわたって実施してきたことで、社会にあった差別・偏見がさらに強化。このような状況下で多大な身体的・精神的苦痛を受けた原

告らが手術等に関する情報を得ることや、権利行使のために弁護士に相談することが著しく困難であった。そのため、国には被害救済の責任があるとして、1650万円の損害賠償を認めた。

### 国は責任を認め、誠意ある謝罪と救済策を

この日、裁判に勝ったと聞いて、みんなで感動と喜びを分かち合った。東さんは体調を崩し、出て来れなかったが、電話で「や



りきった。これから難しい問題が起こっても、勇気をもって提訴したことに後悔はない」との言葉が聞けた。

その一方で、「同じ施設にいて同じ手術をされた仲間はどうしているのか」「障害者への差別や虐待が未だにあることを知ってほしい。こんな社会が変わることを願っている」と話された。

原告らが一番望んでいることは、国が責任を認めて誠意ある謝罪をし、被害者一人ひとりと向き合うことだ。だが、国は未だに責任を認めず、謝ってもいない。

裁判の報告を聞いて、優生手術による被害には、国にきちんと救済策を作ってもらふ必要があると感じた。つまり、被害者と国とが手を取り合っていくことが必要となる。そのためには、被害者が国とやっぴこうと納得できなければ始められないのではないかと。

では、どうしたら被害者が納得できるのかと考えると、やはり国からの誠意ある謝罪があつてこそだと思う。

今回の司法の判断に、国はどうするのか。しっかり見届けたい。また、この問題をきっかけにして知った障害者差別について、これからも考え続けていきたい。

(ひまわり 支援員・西村知与)

## 300人が「次は狭山や！」

### 狭山事件の再審を実現しようと市民の集い

第7回狭山事件の再審を実現しよう 市民のつどい in 関西が3月21日、大阪市内であり、300人が狭山勝利への決意を固めた＝写真。



狭山弁護団の指宿昭一・弁護士は「11人の証人尋問とインク鑑定の実現が大事だ」と。再審署名は49万人に広がる。さらに裁判所を包囲すれば、再審は実現できる、と語った。

### 石川さんが「冤罪晴れるまで…」と支援を訴え

狭山事件の石川一雄さんはビデオメッセージを寄せ、「冤罪が晴れるまで死ねない」と再審実現へ一層の支援を訴えた。早智子さんもアピールした。狭山はこととして60年。第3次再審請求は2006年から続く。

袴田巖さんの姉、ひで子さんは「57年間、再審を待ち焦がれてきた。石川さんも再審開始を願う」と。

### 青木恵子・西山美香さんが「獄友」体験を語る

冤罪被害者の東住吉事件の青木恵子さん、湖東記念病院事件の西山美香さん、映画監督の金聖雄さんら4人がトークセッションした＝写真。



青木さんは1995年に自宅が全焼。長女(小6)が死亡した。警察は保険金目的の放火殺人として逮捕。無期懲役に。だが、再審で無罪に。でも、国家賠償訴訟で国は責任を認めない。青木さんは早急に再審法を制定し、証拠開示のルールをつくるべきだと語った。

西山さんは2003年、看護助手だった滋賀県の湖東記念病院で患者を死亡させたとして逮捕。懲役12年で服役。2020年に再審無罪。国賠訴訟で滋賀県警は違法性はなかったと反省しない。西山さんは和歌

山刑務所での青木さんとの「獄友」話を語った。

### 露の新治さんがお笑い人権高座で会場沸かす

落語家の露の新治さんはお笑い人権高座。「差別は不当な分けへだて」だと語るなど、差別、人権問題を分かりやすく論じて会場を笑いの渦にした。

大椿裕子・社民副党首(メッセージ)、大石あき子・参院議員、森山浩行・衆院議員の3人が連帯アピールした。



和太鼓集団3チームが合同で「真実の響」を演奏して会場を盛り上げた。

終了後、新今宮駅前までパレードした＝写真。

\*\*\*\*\*

## 捜査機関の証拠捏造を指摘

### 東京高裁が袴田事件の再審開始を認める決定

東京高裁は3月13日、袴田事件の再審開始を決定した。袴田巖さんは1966年、静岡県の味噌製造会社の専務家族4人殺害事件で逮捕。犯行を否認するも死刑判決。第2次再審請求審で静岡地裁は再審開始決定。だが、東京高裁は取り消す。最高裁は高裁差し戻し。今回、東京高検の特別抗告断念で、再審開始に。死刑囚として踏みにじられてきた人生にやっと光が見えた。



### 許されない権力のでっち上げで死刑囚に

今回の争点は逮捕1年2か月後に味噌タンクから発見された犯行着衣とされる衣類5点。衣類には血痕の「赤み」が残っていたが、弁護団が黒褐色に変化することを実証。判決は、袴田さんが着衣を入れることは不可能。捜査機関の捏造である可能性が高いと言及した。事件はでっち上げだったことが明白となった。

冤罪を生み続ける司法権力は厳しく断罪されなければならない。全面的に謝罪し、責任を取るべきだ。

# 島々を戦場にさせるな！

## 石垣島でミサイル車両の搬入阻止行動

3月5日早朝5時。自衛隊と機動隊が石垣港に大挙集結。ミサイル発射用の大型車両を陸揚げする港湾出口に「仮設留置場」を急造した。



市民50人が横断幕、プラカード、ノボリ旗を手に「石垣島をミサイル基地にするな」と、警察車両の到着前から現場に立ち、監視と抗議。急を聞きつけた市民も駆けつけ、人の輪が広がった。

7時過ぎ、機動隊が規制に入り、市民を「仮設留置場」に拘束。沿道に広がった市民にも機動隊がマンツーマンで抑え込み、抗議活動を取り締まる。

石垣港の車両出口では、自衛隊員が市民を押し除ける「治安出動」に手を染める。NPA(ナショナル・ポリス・エージェンシー)という警察庁情報部員がカメラで撮影。私服が携帯で連絡を取り合う。用意周到な弾圧体制は「敵地上陸作戦」の実戦さながらであった。

3月6日付「八重山毎日新聞」は1面トップで「陸自車両、駐屯地に搬入 市民団体ら明け方から抗議」と報道。「沖縄タイムス」「琉球新報」も大きく報じた。

## 軍事基地をつくらせない市民連絡会が全国集会

石垣島に軍事基地をつくらせない市民連絡会は当日、「島々を戦場にさせない！全国集会」を開催＝写真。200人が参加して、島の中心街をデモ行進した。

集会のリレートークでは、連絡会共同代表・上原秀政さん、駐屯地の側で農業を営む嶺井善さん、「いのちと暮らしを守るオーバーたちの会」、「普通に暮らしたいず」、市議の花谷史郎さんが発言。島外からは宮古島、普天間爆音、ノーモア沖縄戦の会のほか、関東や関西からの仲間たちが登壇し、アピールした。

前日の4日には駐屯地周辺をフィールドワーク。於茂登岳は一部が県立公園に指定されている。渡り鳥

や絶滅危惧種のカムリワシの生息地でもある。だが、麓は無残に削り取られている。昔から地元が御嶽(聖地)として大切にしてきた場所だ。赤土がむき出す工事現場では、3月の部隊発足に間に合わせ、労働安全法違反の突貫工事。駐屯地は地元の反対で虫食い状態のため、排水設備・道路も未整備のままだ。

フィールドワークのあと、80人が全国交流集会。ドローンで監視を続ける上原正光さん(農業)が上空写真と映像で現状を紹介。奥間政則さんも専門的立場から工事の問題点を解説した。地元からは、4集落がミサイル基地反対決議を挙げ、白紙撤回を求めていることや、戦後、開拓によって基幹産業になったパインとマンゴーを築いてきた誇りが語られた。これが芯にあり、地に足の着いた結束した自治力は、ちょっとやそっとでは崩れることはない、と感じた。



## 東アジアの平和構築に大きなインパクト与える

「石垣市民住民投票を求める会」は2018年に1万4千筆の署名を集め、石垣市に住民投票を請求した。有権者の4分の1を大きく上回ったが、議会は翌年、否決。その直後、沖縄防衛局は工事に着手した。

住民投票を巡っては那覇地裁で係争中。5月にも判決が予定される。しかし、自衛隊の配備は強引に進む。3月16日に石垣駐屯地が開設し、部隊が発足。このあと、ミサイル本体が搬入される予定だ。

自衛隊という名の日本軍が米軍と一体化し、国民を戦争に駆り立てる。これに対し、琉球列島要塞化・島々を戦場にさせない取り組みは、ノーモア沖縄戦・命どう宝の会の呼びかけによる2・26緊急集会デモに世代を超えて1600人の参加をみたように、オール沖縄のみならず、東アジアの平和構築に大きなインパクトを与えている。沖縄が一つになって仮構をあばき、戦争の脅威をはね返す国境を越えた民衆の連帯こそが、次世代への希望のメッセージだと言える。(普天間米軍基地から爆音をなくす訴訟団幹事・高橋年男)

# 着々とみんなの居場所づくり

## コミュニティカフェは思い分かち合う交流の場

高取町土佐街道で毎年開催される「町家の雛めぐり」。当地で活動する「なら人材育成協会」代表の明見美代子さん（なら人権情報センター理事）が運営する「まちャポ」（町家のポニー）に寄り、コーヒーをいただきながら、この間の取り組みを伺った。



ことしは手編み作品の展示をメインに、ぜんざい・ケーキにお茶とコーヒーを準備した。小物雑貨や、「ひまわり美術部」のTシャツ、トートバッグなども販売する。話の合間にも、お客さんが立ち寄り、休憩していく。和やかな景色が味わえた。

3年前から始めた「みんなの居場所べいすたかとり」も活動領域が広がる。子どもの居場所「べいすくーる」は学校に行きづらい子を対象に、のんびりとした時間が流れる空間をつくる。いろいろなことにチャレンジができるように、サイクリング、カフェ店員さん体験、畑での収穫体験、おやつやランチづくり、乗馬体験などを試みる。「まちャポ」でも、子どもカフェを開いている。

### 編集後記 ★★★★★★★★★★

悪評極まる入管難民法。政府はさらに改悪した法案の今国会での成立を目指す。難民認定申請者を迅速に強制送還するのが狙いだ。日本の入管行政は国際水準に程遠い。在留外国人は今、300万人強。超過滞在者は送還か施設に拘束。人間扱いしない。結果、死に至ることも多い。スリランカ人女性ウイシュマさんも見殺しにされた。日本は技能実習生を安価な労働力として利用。非人道的な劣悪条件下で「奴隷」扱いする。外国人を敵視、虐げ、管理する差別政策を連綿と続ける。入管政策は頻発するヘイトとも繋がっている。私たちは外国人と共生していくことこそが重要だ。

コミュニティカフェ「はるはる」（家族会）は、なかなか社会と繋がれずにいる当人への理解を深め合う場。家族ならではの困りごとや悩み、さまざまな想いを分かち合う交流の場になっている。



帰途、「農業ファーム」の活動拠点「ゆいえ」や、「居場所べいす高取」にも立ち寄り、見学させてもらった。

\*\*\*\*\*

## 障害は社会が生み出した概念

### 聴覚障害問題を取り上げた映画「咲む」を上映

磯城郡聴覚障がい者協会が3月18日、川西町コスモスホールで映画「咲む（えむ）」を上映。120人が鑑賞した。「咲む」は全日本ろうあ連盟創立70周年記念として制作。監督は県出身で、自身も聴覚障がいがある早瀬憲太郎。



会長は「奈良県手話言語条例が2017年に制定された。手話は聴覚障害者の言語として社会的に認められている」と手話であいさつした。

映画は、聴覚障害者の女性、瑞月（みづき）が限界集落で「村おこし協力隊」として、一人ひとりの村人と関係をつくりながら、村に元気を与えていく物語だ。

村に住む身体障害者が瑞月に対して、「どうやって障害を乗り越えたのか」と問うと、「乗り越えたのは障害じゃない。自分自身だ」と答えるシーンに胸を打たれた。監督自身も「障害は乗り越えるものではない。障害は社会が生み出した概念」だと訴える。

### ニュースレター「人権なら」

発行：NPO法人なら人権情報センター  
〒636-0223  
奈良県磯城郡田原本町鍵301-1  
TEL:0744-33-8585/FAX:0744-32-8833  
E-mail: info@nponara.or.jp  
http://www.nponara.or.jp/